

報道関係者各位

2023年3月30日
株式会社ゆうちょ銀行

GHG 排出量ネットゼロ達成に向けた 2030 年度中間目標の設定等について

株式会社ゆうちょ銀行（東京都千代田区、取締役兼代表執行役社長 池田 憲人、以下「ゆうちょ銀行」）は、パリ協定の趣意に賛同し、気候変動の緩和・適応に資する取り組みを実施するとともに、これらの取り組みを支援しています。その一環として宣言した、2050年までに自社および投融资ポートフォリオの GHG（温室効果ガス）排出量のネットゼロ達成を目指す「ゆうちょ銀行 GHG 排出量ネットゼロ宣言^{※1}」を、より具体的に推進していくため、今般 TCFD 提言を踏まえた「GHG 排出量 2030 年度中間目標」について、設定・見直しを行います。

GHG 排出量 2030 年度中間目標

○投融资を通じた GHG 排出量（Scope3 カテゴリ 15^{※2}）関連の中間目標設定

電力セクター中間目標：2030 年度排出原単位 165-213 gCO₂e/kWh^{※3}

概要（詳しくは別紙をご覧ください）	
対象セクター	電力（発電事業を行う企業・プロジェクト）
対象 Scope	Scope1
指標	排出原単位（加重平均排出インテンシティ）
対象アセット	社債・株式および貸出
対象時点	2020 年度
ベンチマークシナリオ	IEA WEO 2022 ^{※4} の以下シナリオを採用 ・ IEA Net Zero Emissions by 2050 Scenario (NZE シナリオ) ・ IEA Announced Pledges Scenario (APS シナリオ)

○自社の GHG 排出量（Scope1・2）の中間目標見直し

2019 年度比 ▲46% ⇒ ▲60%

（自社保有施設における使用電力の再エネ化等、GHG 排出量削減の取り組みが進んでいることから、▲60%（2019 年度比）に目標を引き上げることとしました）

今後も、ゆうちょ銀行は、事業による環境負荷低減に努めるとともに、投融资先とのエンゲージメント（建設的対話）を通じた社会全体の GHG 排出量削減の取り組みを後押しする等、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※1 詳しくは、2022年3月29日プレスリリース「GHG 排出量ネットゼロ達成へのコミットメントについて」をご参照ください。

https://www.jp-bank.japanpost.jp/aboutus/press/2021/abt_prs_id001674.html

※2 GHG プロトコルにおける区分。ゆうちょ銀行では二酸化炭素を目標・管理対象としています。

Scope1：事業者自らによる GHG の直接排出

Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3：事業者の活動に関連する他社の排出（カテゴリ 15 は投資）

※3 算出にあたっては、S&P グローバル Trucost 社が提供する GHG 排出量・財務関連データ等を使用しています（GHG 排出量データは S&P グローバル Trucost 社による推計値を含む）。今回の算出は、国内外の社債・株式および貸出（Scope1）を対象としています。算出に必要なデータが揃わない場合等は、算出対象から除いております。今後もデータ収集を継続し、算出対象の拡大を図ってまいります。

※4 IEA（International Energy Agency／国際エネルギー機関）が発行している、WEO（World Energy Outlook／世界エネルギー見通し）の 2022 年版。

1 GHG 排出量 (Scope3) 関連の 2030 年度中間目標の考え方

対象	電力セクターは、特性上事業に係る GHG 排出量が多く、当行が社会全体の GHG 排出量削減の取り組みを後押しするうえで、重要なセクターであると認識しております。また、電力セクターにおける排出量の大部分を占める Scope1 を対象としております。
指標	電力セクターは、IEA WEO 2022 において、エネルギー源の電化や人口増による経済成長等を背景に、電力需要が増加するとされていることから、GHG 排出効率である排出原単位（加重平均排出インテンシティ）を指標とすることが望ましいと認識しております。
排出原単位 計算式	$\sum \left(\frac{\text{各社への与信額}}{\text{電力セクターへの総与信額}} \times \frac{\text{各社の GHG 排出量}}{\text{各社の電力発電量}} \right)$
目標値：165-213 gCO2e/kWh	<p>① 165 gCO2e/kWh IEA WEO 2022 における NZE シナリオ（1.5℃シナリオ）に整合しています。</p> <p>② 213 gCO2e/kWh IEA WEO 2022 における APS シナリオ（2℃を十分に下回るシナリオ）に整合しており、当行投融資ポートフォリオを勘案した目標値としています。</p>

2 脱炭素へのロードマップ

